

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名（園名等）	東京都市大学二子幼稚園
----------	-------------

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『自然環境とデジタル ～自分にできることは何だろうか?～』

<テーマの設定理由>

園庭の木々や草花が四季によって移り変わることや、自然に自ら触れたり、様々な事象に対して敏感に気づき、昆虫等の生き物にも関心をもつ子どもたちの姿が見られる。また、ICT活動としてiPadやKitSというアプリを導入してデジタル機器を使用した保育が定着しつつあり楽しんで取り組んでいる。これら子どもたちの様子から、デジタル機器を活用することで、より自然環境に対する興味関心を深めるきっかけとなり、一人ひとりの視野や世界観の幅を広げることにつながることを目指したい。そして、VUCAの時代を生き抜くこれからの子どもたちが自然環境の大切さや問題点への気づき、探究心・知的好奇心・思考力を育みたいと考え、上記テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

活動期間：2025年9月～2026年3月

- ① 『コンポストを使って堆肥作りをしよう』
- ② 『地域の米屋と花屋に行こう』
- ③ 『4つのガーデンのシールラリーに挑戦』
- ④ 『植物の不思議さやもっている力を知って実験をしよう』
- ⑤ 『水のゆくえについて知って環境に優しい石鹸を作ろう』
- ⑥ 『海洋プラスチックの問題からマイエコバッグを作ろう』
- ⑦ 『心ってどこにあるの?』
- ⑧ 『光と影の不思議』

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等

【環境設定】

- ・園庭及び室内での様々な植栽関連の素材、ガーデンズの看板、オリジナルタペストリー、コンポスト、マイクロスコープ、iPad、プロジェクター、ライトテーブル、書画カメラ、テーマに沿った絵本を主軸の環境として設定した
- ・主に学年ごとに取り組んできたが、活動内容によって遊戯室や保育室を選定した
- ・自由な時間と活動へのつながりや興味の広がりや興味を考慮し、シールラリーカードや自分事カードを作成し、主体的に自然環境に触れる機会がもてる工夫をした

【活動内容からの子どもの姿や教員との関わり】

- ・1年を通して、例年に比べ、自然環境（主に園庭の草花や木々、土や水）に進んで関わる姿が頻繁に見られた
- ・また、デジタル機器をすることで、よりわかりやすく伝わったり、興味や関心の幅に良い影響を与えたりしていた
- ・活動後に、子ども自身が疑問に思ったことをクラス担任に尋ねたり、クラスで話し合ったり、さらに深く活動を広げたりと探究心をもつきっかけがもてた
- ・一人ひとりの視野の広がりを感じ、特に環境問題への意識が今年度初めて芽生えたように感じた
- ・保護者からの声として、家庭でも海洋プラスチックの問題や植物のもつ特性について語り合うことが増えたとの話をうかがえた



コンポストでの堆肥作り①



コンポストでの堆肥作り②



植物の不思議についての話と花びらの実験やシールラリー



水のゆくえより～地球に優しい石鹸作り～

4. 振り返り

<振り返りによって得た気づき>

- ・近年の保育・幼児教育では、自然とデジタルを組み合わせた学びの可能性が強調されているが、今回の活動を通して、融合できることを感じた
- ・子どもが感じた自然の美しさをマイクロスコープや iPad で撮影し、感動や発見を分かち合う姿や電子顕微鏡で拡大し、目に見えない美しさを発見する様子も見られた
- ・今回のような実践は、自然体験を単なる感覚的な経験で終わらせるだけでなく、「再生可能な記録」「共有」「深い探究」へと発展させるデジタル機器利用の利点と重要性を感じた。
- ・自然環境とデジタル機器は対立させるのではなく、互いの強みを活かして統合的に扱うことが、幼児の豊かな発達につながることを改めて理解した。